9 September 2010

弘前大学 学園だより

題字：遠藤正彦　学長

VOL.168

「クロックタウン」　制作　教育学部学生　今　里奈

Ⅰ　特集　弘前城築城400年にむけて―　2
附属図書館長　長谷川　成　一
人文学部　森　樹　男
弘前市立博物館主事兼学芸員　鶴　巻　秀　樹

Ⅱ　海外だより　―――　14

Ⅲ　新任教員自己紹介　―――　15

Ⅳ　けいじばんコーナー　―――　16

Ⅴ　編集後記　―――　18

特　集

弘前城築城400年にむけて

弘前城築城400年にむけて

来年（平成23年）、弘前城は築城400年を迎えます。弘前市では、築城400年に向けて「弘前城築城400年祭実行委員会」を組織し、この委員会を中心として、キャッチフレーズやシンボルマーク、マスコットキャラクターなどを選定したり、各種のイベントを開催したりするなどして、築城400年祭を盛り上げようとしています。

この弘前城と本学の関わりは、非常に深いものがあります。学生の皆さんも、例えば、さくらまつりの時期には、学生同士で花見に出掛けることもあるでしょう。また、弘前に下宿している皆さんは、遠方のご家族や友人が弘前に訪ねてきたときには、弘前城を案内することもあるのではないでしょうか。かつては本学の教育学部の校舎が弘前公園の敷地内にあったこともあります。このように関わりの深い弘前城の築城400年祭ですから、各種行事には、学生の皆さんも、サークル等の一員として、あるいは学生個人として、何らかの形で関わっていくことになると思います。また、大学としても、研究等を通じてより深い繋がりが生まれてくることでしょう。

しかし、学生の皆さんは、弘前城のこと、そして築城400年祭のことをどのくらい知っているでしょうか？実際に築城400年祭に関わっていく中で、これらのことをまったく知らなかったり、間違った知識を持ったりしていては、やはりまずいでしょう。そこで、本号では、学生の皆さんに弘前城のこと、築城400年祭のことをもっと知ってもらおうと、「弘前城築城400年にむけて」という特集を組みました。

まず、弘前城築城の歴史を知ってもらうため、日本近世史、とりわけ弘前藩の研究の第一人者である図書館長の長谷川成一先生に、弘前城築城の歴史に関して解説をしていただきました。学生の皆さんは、これを読むことによって弘前城築城に関する正しい知識を得ることができることと思います。次に、弘前城築城400年を契機として、本学人文学部の先生方が取り組まれている研究プロジェクトに関して、プロジェクトリーダーの森樹男先生に、その内容について説明をしていただきました。弘前城築城400年祭が本学の研究と結びついた好例の一つです。最後に、本学人文学部の卒業生であり、現在、弘前市立博物館で主事兼学芸員をされている鶴巻秀樹さんに、築城400年祭に向けた弘前市の取り組み、そして弘前市立博物館の築城400年祭事業について解説していただきました。本学の外部の取り組みを知ってもらうとともに、先輩が活躍されている姿も感じ取ってもらえればと思います。

弘前城の概要

江戸時代には弘前藩津軽氏47,000石の居城として、津軽地方の政治経済の中心地となった。城は津軽平野に位置し、城郭は本丸、二の丸、三の丸、四の丸、北の郭、西の郭の6郭から構成された梯郭式平山城である。創建当初の規模は東西612メートル、南北947メートル、総面積385,200平方メートルに及んだ。現在は、堀、石垣、土塁等城郭の全容がほぼ廃城時の原形をとどめ、1棟の天守、3棟の櫓、5棟の櫓門が現存する。天守は日本に12箇所残されている現存天守（江戸時代以前に建造された天守を有する城郭）の1つであり、国の重要文化財に指定されている。司馬遼太郎は『街道をゆく - 北のまほろば』で、弘前城を「日本七名城の一つ」と紹介している。

弘前城関連年表

1590	南部氏に臣従していた大浦為信は、小田原攻めにあった豊臣秀吉より南部氏に先駆けて45,000石の所領安堵の朱印状を受ける。大浦を津軽と改姓
1594	為信、堀越城（弘前市堀越）を築き大浦城より移る。しかし、軍事に不向きであることを理由に新城の候補を鷹岡（現在の弘前城の地）に選定
1600	為信は関ヶ原の戦いで東軍に付き、徳川家康より2,000石の加増を受け47,000石の弘前藩が成立
1603	為信、鷹岡に築城を開始
1604	為信、京都にて客死し、築城は中断する
1609	2代信枚（信牧）、築城を再開。堀越城、大浦城の遺材を転用し急ピッチでの築城を行う
1611	僅か1年1か月で弘前城落成
1627	落雷により5層5階の天守を焼失。以後、200年近く天守のない時代が続いた
1810	9代藩主津軽寧親、3層櫓を新築することを幕府に願い出て、本丸に現在見られる3層3階の御三階櫓（天守）が建てられた
1894	旧藩主津軽氏が城跡を市民公園として一般開放するため、城地の貸与を願い出て許可される
1895	弘前公園として市民に一般開放される
1898	三の丸が陸軍兵器支廠（のち第8師団兵器部）用地となる
1903	これ以降桜が植えられ、桜の名所となる
1909	1906年の藩祖為信公三百年祭の記念事業として、高さ約4mの津軽為信の銅像が本丸に建立された
1953	三の丸東門が国の重要文化財に指定され、現存建造物の全て（9棟）が国の重要文化財となる
1962	弘前公園内にあった教育学部校舎が全焼する
2003	本丸・北の郭への入園が有料となる（4月から11月の間）

弘前城築城400年祭にあたって

―築城の歴史―

附属図書館長　長谷川　成　一

2011年（平成23年）、弘前城は築城400年を迎えます。昨年から、それに関わる行事などが種々企画され、市民の間では築城400年を祝う機運が次第に高まってきています。私も、一昨年以来、弘前市から弘前城築城400年祭実行委員会のアドバイザーをはじめとして、弘前市歴史的風致維持向上計画委員会や史跡津軽氏城跡弘前城整備計画委員会の委員長を委嘱され、弘前市の史跡整備や歴史的な景観保存計画の立案に関与させられているところです。この間、委員だけでなく市民の方々と意見を交換する機会を持ちましたが、若い市民との懇談のなかで感じたのは、弘前城の成り立ちや弘前城下の変遷、弘前藩の歩みについて、正確な知識がやや不足しているのではないかということでした。これは、本学の学生諸君も例外ではないのではないかと懸念されます。このたび、「弘前大学学園だより」編集委員会から築城400年の企画に関する原稿の求めがあったのを機会に、資史料に基づいた築城の歴史を概観することにしたいと思います。

図1　寛永末年（1643）頃「津軽弘前城之絵図」弘前市立博物館蔵

弘前城の築城の経過については、概ね次のように認識されています。慶長8年（1603）、初代藩主津軽為信が、新たに高岡（たかおか）（寛永5年〈1628〉8月20日、弘前と改称。混乱を回避するため地名を弘前に統一）に町割りをしたことが、築城と城下町建設のさきがけと見なされています。ついで、慶長14年、二代藩主信枚（のぶひら）が江戸幕府

図2　津軽信枚絵像（高野山遍照尊院蔵）

図3　満天姫絵像（長勝寺蔵）

に交渉して築城の公許を得てのち、翌15年、幕府の検使兼松源左衛門と正木藤右衛門の検分を受け、2月には本格的な城普請に着手。約15ヵ月を費やして、16年5月、城は完成しました（図1）。弘前城の築城は幕府公認のもとになされ、津軽家が勝手に建設したのではありません。

弘前城の築城に関する一次史料は全く存在しないので、「津軽一統志」によって築城と城下の建設についての概略を年表風に記します。

○慶長15年、城地を二ッ石（にっいし）と呼ばれていた地に定め、幕府の検使兼松･正木両名の検分を受け、2月、東海吉兵衛が縄張りを行う。石垣の石は長勝寺の西南「石森」や兼平から採取。五層の天守等に用いる鉄は、「外ヶ浜小国・蟹田」で南部鉄吹きを呼んで製鉄した。

○慶長16年5月、弘前城と城下町が完成したので、堀越から神社・仏閣、家臣団の屋敷、商工民の屋敷を移転した。

○慶長19年6月から、領内の人夫1万人を動員して城下の南側に南溜池を掘らせた。

ところで、弘前城の築城はどのような全国的趨勢のなかに位置づけられるでしょうか。九州佐賀藩の「鍋島直茂公譜考補」（内閣文庫蔵）慶長14年の条には、「天守御成就、今年日本国中ノ天主数二十五立」と見えます。佐賀城の天守は完成したが、同年には、全国で25の天守が建ったとあり、25の新たな築城が全国的になされました。武家諸法度で、幕府が大名の城郭建設に厳しい態度で臨んだことをご存知の読者には、意外に思われるでしょう。

しかし、上記の史料にあっては城郭建設の抑制どころか、むしろ築城が盛んであったことを示しており、幕府公認のもと、各大名領で積極的な城普請が実施されたと考えられます。ただし、この傾向は各領内の根城（ねじろ）として位置付けられるような大規模な城郭が築かれ、その過程で中世以来の小規模な城館が取り壊され、建築材として根城の建設に用いられたと言います（田中歳雄「一国一城令の成立過程－伊予国の場合－」『愛媛大学紀要　人文科学』第6巻2号）。元和元年（1615）の一国一城令に先行する政策とも解釈され、幕府は大名領内の城郭を一城に集約させる手立てとして新城の築城を許可し、端城（はじろ）の淘汰を進めさせたと見て良いでしょう。

津軽家も同様の措置をとっており、大光寺･浅瀬石･黒石等の城々を破壊して建築材を弘前城の普請工事に転用しました（「封内事実秘苑」）。弘前城の築城は、慶長10年代、全国的に行われた築城の機運に乗っ取って実施されました。

慶長16年6月、完成したばかりの新城に迎えた最初の賓客（ひんきゃく）が、徳川家康の養女で藩主信枚（図2）

の正室となって江戸から津軽へ下向した満天姫（図3）でした。信枚は、戦国の匂いの残る草深い堀越城ではなく、典型的な近世の城と五層の天守（寛永4年に焼亡）から望む岩木山のすばらしい眺望を満天姫に披露したことでしょう（図4）。

ところで、司馬遼太郎氏は、『北のまほろば』（朝日文芸文庫）のなかで、弘前城を「日本七名城の一つ」とし、津軽氏は4万7000石の石高に過ぎなかったのに、同城は「三十万石以上の規模」の城郭であると書いています。弘前城は、果たして司馬氏の言うように本当に30万石以上の大名の城郭なのでしょうか。

図4　五層の天守と岩木山（長谷川成一他編『図説青森県の歴史』河出書房新社）

江戸時代における、5万石、30万石の各大名の城郭規模を簡単に比較してみましょう。5万石弱の弘前城は約49ヘクタール、31万石余の備前国岡山藩の岡山城は約150ヘクタール（東西南北の距離を単純に掛け合わせただけなので、概数としてとらえてください）、5万石余の石見国浜田藩の浜田城は約12ヘクタール、赤穂事件で有名な、5万3000石の播磨国赤穂藩の赤穂城は約18ヘクタールです。当時の城郭は、面積だけでなく標高、天守の階層も城の偉容のうちに入っていますから、単純な比較は危険ですが、上記の各城は平山城ですので、面積を重視して比較してみました。ご覧の通り、弘前城は岡山城の三分の一の規模であり、とうてい30万石の城郭規模には及びません。司馬氏の説明にはやや無理があるといわざるを得ません。石高において弘前藩とほぼ同規模の赤穂や浜田両藩の城郭と比較すると、弘前城は3倍から4倍弱の城郭規模でした。

それでは、面積から見た場合、弘前城はどこにランクされるでしょうか。四国讃岐の高松藩の松平家は、「四国・西国の押さえ」として江戸幕府が名門の同氏を高松においた家門大名でした。石高は12万石、高松城の面積は約66ヘクタール（現在は約八分の一に縮小）です。つまり、石高は半分以下である弘前城の規模と、石高が弘前藩の2倍以上ある高松城のそれが近似しています。このことから、築城当時の弘前城は当時10万石の大名の城郭に匹敵する規模であったといえましょう。これは、司馬氏のいうように、徳川家康が為信に特に甘かったからではなく、津軽家が蝦夷地・北方世界への備えとして、換言すれば「北狄の押さえ」として、成立期幕藩体制の政治力学のなかで、高松松平家と同様、重要な責務を負わされたため、石高に不相応な規模の城郭建設を許されたのだと考えられます。

築城400年を契機とする弘前市の歴史・文化・経済の振興プロジェクトについて

人文学部　森　樹男

2009年6月、弘前大学人文学部では、「築城400年を契機とする弘前市の歴史・文化・経済の振興プロジェクト」を立ち上げました。このプロジェクトの目的は次の通りです。

弘前市には、弘前城築城から400年という歴史の積み重ねがある。地域の発展を考えるにあたっては、この400年の蓄積をいかに活かし、継承していくかが重要である。そこで本プロジェクトでは、弘前市が将来にわたって持続的に発展していくためには何をなすべきか、歴史・文化・経済の側面から調査研究し、その成果を市民に対して発表し、地域活性化の取り組みを推進していくことを目的に実施するものである（2009年度調査報告書『全国の築城400年祭』より抜粋）。

この目的のもと、森樹男（代表：国際経営）、長谷川成一（日本近世史）、佐々木純一郎（国際経済）、石堂哲也（アメリカ文学）、丹野正（文化人類学）、長谷河亜希子（商法）、岩田一哲（経営学）、高島克史（経営管理）の総勢8名が集まり、プロジェクトが立ち上がりました（括弧内はそれぞれの専門分野を示しています）。

ご覧のように、このプロジェクトに関わるメンバーの専門分野は多岐にわたっており、それぞれが自らの専門分野の視点から弘前城築城400年という歴史を眺め、それぞれの立場から弘前市の地域振興について研究を行うこととしています。言い換えれば、このプロジェクトは、弘前城築城400年を契機に、弘前の400年という歴史を分野横断的に研究しようという野心的な計画なのです。

さて、私たちは、このプロジェクトを進めるにあたり、以下の4つのテーマを掲げ、具体的な研究に取り組むこととしました（以下、同上の報告書より抜粋。筆者一部修正）。

①歴史文化遺産をまちづくりにいかに生かすか

弘前市には、国史跡津軽氏城跡弘前城跡をはじめとして、近世・近代の史跡や歴史的建造物、重要文化財が数多く残っている。北東北において、一都市にこれだけの歴史文化遺産を包含している都市は他にない。この歴史文化遺産を、どのように現代の町づくりに活用するか、重要な課題であるとともに、それは弘前市においてしかできない文化の薫り高いまちづくりに直結するものである。そのために、遺産の確認作業と、それに基づいた市民の啓発活動に取り組むこととする。

②弘前・津軽地域における企業家の精神や思想基盤を、いかに継承するのか

弘前出身の企業家として有名なのは、初代日本商工会議所会頭・藤田謙一である。その功績は、現在の藤田記念庭園として残され、かつての官立弘前高等学校の誘致や支援でも知られている。また藤

田育英社を設立し、人材育成に貢献している。さらに、津軽地域の企業家としては、弘前相互銀行を設立した唐牛敏世（黒石出身）がいる。これらの先人企業家の精神や思想基盤を理解することは、地域に密着した企業家の育成のために、重要であると考えられる。そこで本研究では、これらの弘前・津軽地域の企業家の精神や思想基盤に焦点を合わせ、弘前における起業家について検証を試みる。

③弘前における多様性（ダイバーシティ）をいかに創造性（クリエイティビティ）に結びつけるか

弘前市はこれまで、キリスト教精神に基づく私立学校の設立、旧日本陸軍第八師団の設置、官立弘前高等学校の設立などにより、地域の外との交流により新しい刺激を受け、活性化してきた地域である。この外部との交流は、市に多様性をもたらすこととなった。たとえば、弘前市は和風建築と洋風建築が混在し、日本料理（郷土料理）店だけでなく、フランス料理店が多数存在する。このような多様性は、やがて創造性につながり、イノベーションを生み出すこととなる。そこで、この多様性をキーワードに、弘前市のこれから発展について研究を行う。

④弘前・津軽の人々の精神基盤はいかにして継承されてきたか

津軽人といえば、「じょっぱり」という言葉で性格や精神が表現されてきた。しかし、太宰治の小説『津軽』においては、必ずしもそのようには記しておらず、単純なものではない。藩政時代に全国的に有名であった弘前藩の藩校「稽古館」の教育は、藩士をはじめとする多くの人々の精神形成に影響を与えた。藩校で教育を受けた思想家陸羯南は明治の思想家として傑出した人物であり、このような人物を育てた弘前・津軽の精神風土の研究は現在の教育を考える上でも大きな示唆を与えるものである。

以上が、私たちのプロジェクトの掲げる４つのテーマです。このテーマに基づく本格的な研究は本年度より開始しますが、昨年度（平成21年度）は、このプロジェクトの準備段階と位置づけ、全国で展開されてきた築城400年祭について調査と講演会を行いました。

まず、全国の主要な城下町で行われた築城400年祭の調査では、メンバーが、彦根城、丹波篠山城、延岡城、津山城、熊本城を訪ね、築城400年にあたり、どのような取組（築城400年祭）を行ったのか、まち興しにどのような影響があったのか、城郭の管理はどのように行っているのか、城郭を使用しての教育は行っているか、などについてインタビュー調査を行いました。その結果、多くの地域で、多くの市民が参加する形で築城400年祭が行われており、これを契機に市民のまちづくりに対する意識が向上するなど、まち興しにプラスの影響があったことがわかりました。一方で、築城400年祭が終わった後、市民のまちづくり活動が継続できているところと、継続できず、結局一過性のイベントで終わってしまったところがあり、この築城400年祭を契機に向上した市民の意識をいかに持続的に発展させていくことが難しいかを知ることにもなりました。

また、2009年10月に松江で行われた「お城サミット」に参加し、お城を抱える地方自治体の首長の考え方について触れる機会も得ました。サミットでは、お城の国宝化が議論になるなど、お城の利活用について活発な議論がなされました。今後の各自治体の動きが注目されるところです。

さらに、熊本から、熊本城総合事務所の下田誠至氏をお呼びし、

「よみがえる熊本城－熊本城復元整備とまちづくり－」と題した講演会を開催しました。この講演では熊本城の復元の様子と、それによるさまざまな効果などが詳細に紹介されました。また、復元にあたっては「地産地消」を実行し、地元で調達できる材料はすべて地元で調達し、復元に携わる職人も地元の職人を中心に集め、技術の継承などを行ってきたこと、復元のための資金については、「一口城主」という方法で、募金者に城主手形を発行し、特典を与えるなど、ユニークな方法による復元募金が実施されたことなど、興味深いお話が紹介されました。

以上が昨年の活動内容です。本年度は、これらの成果を踏まえ、私たちが掲げた4つのテーマについて本格的に研究を行っていく予定です。これらの研究成果については、築城400年となる2011年にシンポジウムを開き、広く成果を公表する予定にしています。

なお、昨年度の成果については報告書にまとめていますので、報告書をご希望の方はご連絡ください。

連絡先

人文学部グローバル経営研究室（森）
TEL. 39－3295
メール：mori@cc.hirosaki-u.ac.jp

弘前城築城400年祭

弘前市立博物館
主事兼学芸員　鶴　巻　秀　樹

• シンボルマーク　お城と桜とりんご400年

弘前城は、藩祖為信により計画され、二代藩主信枚により慶長16年（1611）に完成しました。以来、弘前市は、津軽地域の政治・経済・文化の中心都市として発展してきました。来る平成23年（2011）には築城400年の節目を迎えることになります。弘前城の築城は、現在の弘前のまちなみ形成の礎であり、築城から400年を迎えることは、歴史的にも、まちづくりの観点からも非常に大きな意義があります。

この機会を、先人の歩みを振り返りながら新たな未来へ踏み出す第一歩と位置づけ、「私四百　恋へよ津軽」のキャッチフレーズのもと、市民と共に全市を挙げて「弘前城築城400年祭」を実施します。

キャッチフレーズ

弘前を恋してね、来てね、の気持ちを込めて…「私四百　恋へよ津軽」です。あらゆる人たちが弘前を好きになって（恋して）もらいたい、「恋＝来い≒来いへ」という津軽弁とかけて「もっともっと弘前に来ていただきたい」という気持ちなど、様々な思いが込められたキャッチフレーズです。

題字（ロゴ）

弘前市出身・在住で、一昨年のNHK大河ドラマ「篤姫」の題字でも有名な菊池錦子さんが揮毫したものです。菊池さんは来年の大河ドラマ「江～姫たちの戦国～」の題字も手がけることになりました。

400年祭の題字は、菊池さんによると「お岩木山のお姿と天守のような形、そして中央に向かって伸びてゆく市民の高い志と、末広がりに永久に発展してゆく弘前の姿を重ね合わせた」とのこと。題字には縦書・横書や一行・二行と4パターンがあります。全体として岩木山や天守をイメージしているのであれば、書家の意図を汲んだかたち、出来るだけ横二行書を使用したいものですね。

シンボルマーク

全国各地からご応募いただいた中から、東京都の中川亮さんがデザインしたものに決定。作者によると「弘前城をシンプルなかたちで表現しました。400という数字の中に弘前市のシンボルである桜とりんごを配しました。」とのこと。“お城と桜とりんごのまち”弘前を、そのままイメージさせる

弘前城築城400年祭

• 菊池錦子さん揮毫の題字

秀逸なシンボルマークだと思いませんか。いろんなところにデザインできそうです。

マスコットキャラクター

弘前城築城400年祭のマスコットキャラクター「たか丸くん」は、大阪府妹尾昭吾さんのデザインによるキャラクターです。作者によると「弘前城の別名「鷹岡城」の鷹をイメージキャラクターにしてみました。」「また彼は津軽為信の兜をイメージした弘前城が乗った兜をかぶっています。」「とても頭が良く弘前市民が大好きでいつもみんなの安全を見守っています。」とのこと。

近年のゆるキャラブームの火付け役、国宝・彦根城築城400年祭イメージキャラクター「ひこにゃん」、当初気持ち悪いと非難を浴びたが最近人気、平城遷都1300年祭のマスコットキャラクター「せんとくん」は全国的にも有名でしょう。青森県内に眼を向けると、青森県産品のPRキャラクター「決め手くん」や、つがる市農産物イメージキャラクター「つがーるちゃん」はスーパーなどでよく見かけるところです。たか丸くんも、県内外の多くの皆さまに弘前城築城400年をアピールするべく、ぜひとも大きく羽ばたいて欲しいものです。

たか丸くん(の着ぐるみ)は、最近いろんなイベントに出没しているので、皆さんもご覧になったことがあるでしょうか。かなりプリティーですので、「たか丸くんおでかけ計画」などで出演機会をチェックしましょう。

◎主な事業とスケジュール

弘前城築城400年祭の本番は、年が明けてからの平成23年1月～12月です。現在は、4月から年末12月までのプレイベント期間として、様々な事業が展開されています。6月の「城下町シンポジウム」や、8月「ファッション甲子園」などは記憶に新しいところです。今後も以下のような事業が予定されています。(※事業名称、期日は変更となる場合があります)

○一足お先の映画祭(12月3日ワーナーマイカルシネマズ弘前、12月4･5日弘前中三スペースアストロ)
東北新幹線全線開業にあわせて「鉄道」をテーマとした映画祭。23年は「弘前」や「お城」にちなんだ映画を上映予定。

○ The 津軽三味線2010(12月11日、弘前市民会館)
迫力の津軽三味線300人大合奏。民謡や手踊りなどともコラボした魅力的な公演。

○狂言弘前特別公演(12月12日、弘前市民会館)野村萬斎親子が競演する狂言を公演

• マスコットキャラクター　たか丸くん　お見かけしたら応援してね！

来年平成23年の1年間、本事業期間にも様々な事業が予定されています。

○オープニングセレモニー（22年12月31日深夜～23年1月1日）
○雪燈籠まつり・さくらまつり・ねぷたまつり・紅葉と菊人形の四大まつりを400年スペシャルバージョンで実施
○記念式典（5月下旬）
○弘前城薪能（6月下旬）
○400年記念時代絵巻（9月下旬）
○エンディングセレモニー（12月）

詳しくはホームページで
弘前城築城400年祭　検索

◎弘前市立博物館での築城400年祭事業

博物館では、弘前城築城400年祭の目玉事業として『近衛家陽明文庫名宝展（仮称）』を開催する予定です。会期は400年祭本番年の平成23年の5月下旬から7月初旬まで。

近衛家は、藤原鎌足以来連綿と続いてきた藤原氏の嫡流で、五摂家の筆頭として重きをなしてきた家柄です。昭和13年（1938）、内閣総理大臣・近衛文麿によって、近衛家に一千年来伝来した資料の散逸を防ぐため、陽明文庫が設立されました。国宝8件、重要文化財59件を含む20万点という膨大な資料が収蔵されています。

なぜ、近衛家に関わる展示するのでしょう。実は、弘前藩主家の津軽家の宗家は近衛家なのです。近衛家から認められた系図によると、藩祖為信の2代前の大浦政信が、関白近衛尚通の子であるとしています。為信が近衛家と接近して以降、両家は密接な関係を保ち、近衛家から姫君が輿入れしたり、また津軽家13代当主は近衛家から養子に迎えています。津軽家が大名として存立する上で必要とした、高貴な血筋・近衛家に伝わった名品の数々をご覧いただきます。

展示予定作品は、国宝・重要文化財を含む約100点。国宝は「御堂関白記」「御堂御記抄」「後二條殿記」「大手鑑」「倭漢抄」「歌合（十巻本歌合）」「類聚歌合（廿巻本歌合）」「熊野懐紙（後鳥羽天皇・藤原家隆・僧寂蓮）」「神楽和琴秘譜」の8件です。特に「御堂関白記」は藤原道長の自筆日記で、教科書などにも出

国宝　御堂関白記（陽明文庫蔵）

県重宝　新井晴峰筆　観楓図屏風（弘前市博物館蔵）

てくるので御存知の方も多いのではないでしょうか。

青森県内にある国宝は、八戸市櫛引八幡宮の「赤糸威鎧」「白糸威褄取鎧」、同じく八戸市で近年国宝指定された「合掌土偶」の、合計3件のみ。弘前市で公開された国宝は、ここ10年間で4件のみです。どれだけ国宝を目にする機会が貴重かお分かりにいただけるでしょうか。8件もの国宝が弘前で展示される機会は今後もないものと思います。公家文化の殿堂、陽明文庫の名品展だからこそといって良いでしょう。来年の『近衛家陽明文庫名宝展（仮称）』は必見ですよ。

ほかにも、以下のとおり予定しています。

○今冬11月27日～1月30日『津軽に眠る名宝展』、当地方に残る文化遺産、特に絵画資料を展示公開

○来春4月上旬～5月上旬『津軽塗（仮称）』、津軽塗の名品と、現代の塗師たちの作品やテーブルセッティング

先人たちが培ってきた伝統文化、当地に残る文化財を知る絶好の機会ですので、是非博物館にお越し下さい。

重要文化財　青磁鳳凰耳花生　銘千声
（陽明文庫蔵）

Study Abroad in Hirosaki

Michael Musser
13 July 2010
（テネシー大学マーチン校からの交換留学生）

When I first moved to Hirosaki in order to begin studying, I was unprepared for how much would experience. Where I live in Tennessee has a very hot and humid climate, so the first aspect of life in Hirosaki that shocked me last fall was how much cooler it was. I feel that I have since become more accustomed to the climate, but my first winter in Hirosaki was a rather trying experience. Other than just becoming used to the change in temperature, I also had to become used to living in an area where very few people speak English.

While living in Hirosaki and attending classes, I have made many friends that I feel I can remain in contact with for years to come. My Japanese tutor was especially helpful in getting me settled into daily life, and the other foreign students with whom I have become friends have helped make my stay here very

enjoyable. I have been able to meet other students from countries in Europe, South America, and Asia that share the same interests and values that I do. That is something that I would have never experienced had I not come to Hirosaki. In a way, these friends have become a second family to me, and have helped make me feel at home, even though I am in a foreign country.

While here, I have also been able to see sights that are unique. I have been able to see shrines and temples, as well as other traditional Japanese architecture, which cannot be seen in Tennessee. I have also been able to tour a sake brewery and plant rice the traditional way. It has been these experiences, as well as attending various exciting festivals, that have made living in Japan seem more real to me.

I feel that the complete immersion into Japanese life was the best choice for improving my Japanese language skills. By transferring to Hirosaki and enrolling in Japanese language classes, I was forced to improve my Japanese in order to perform daily activities. It makes a difference when a student is learning a language in the classroom and when they have to put that knowledge to use in life. For me, the most helpful point was being able to use the newest vocabulary that I learned in class as soon as I left. In America, I did not use the Japanese that I learned in my daily life, so it had less meaning to me.

While attending Hirosaki University, I have enrolled in a variety of classes that I feel have broadened my understanding of Japanese culture. Of course, the most helpful classes that I took were the Japanese language classes, but I have also enjoyed taking classes about Japan's rice culture, traditional religious practices and beliefs, and modern Japanese business practices. These classes have helped me understand some of the intricacies of Japanese culture that I was unaware existed.

While studying abroad may not have much of an impact on my schooling, as Japanese is only a hobby that I enjoy rather than a part of my degree, I believe that it will have a great deal of influence on my choice of work. Before coming to Japan, I was looking for jobs that would put what I have learned for my major, computer science, to work, but I now wish to find a job which will utilize my Japanese language skills. I would also prefer a job which will allow me to return to Japan, so that I may study the language and culture further. I plan to put my newly practiced Japanese language skills to use by being either a translator or interpreter for a Japanese/American international company and helping burgeon foreign relations. I believe that not only the Japanese language skills that I learned in Hirosaki, but also the experiences of daily life in Japan, with all of its ups and downs, will help me in finding a suitable vocation.

Altogether, studying abroad in Hirosaki has been a fun and rewarding time of discovery and learning. It is an experience that I would recommend to anyone debating whether or not they should try to go outside the world that they know.

日本に留学して

崔（サイ）　暁瑛（ギョウエイ）
（延辺大学からの交換留学生）

「留学」、それは誰でも夢見ていることであり、大学で日本語学科に入ったその時から私もずっと日本留学を夢見ていた。自分が頑張ったおかげか、運が良かったか、去年の10月私は日本に留学に行くことになった。今まで地元生活で、外国はおろか、自分の国の別のところにもあんまり行ったことがなかった私には日本留学はすごくうれしいことで、ちょっとは怖いことだった。親のそばを離れ、全く新しい環境で、全く新しい人々とうまくやっていけるかどうか心配になっちゃった。

今年の四月四日、わくわくする心を抑えながら、私は日本の青森空港に着き、翌日、初めて弘前大学に向かった。中国の大学での専攻が日本語とは言え、本場の日本人とはあんまりしゃべったこともないし、これから一人でどうやってアパートを捜し、いろんな手続きをすればいいのかという悩みを抱えていたのだが、チューターのおかげでその悩みたちは遠く飛んで行っちゃった。チューターとは日本に来たばかりで、日本のことや日本語をあんまりよくわからない留学生のために色々な手続きや生活相談をしてくれる弘前大学の学生さんたちのことをいうんだけど、彼らがいてくれで本当に助かったし、今も困ったことなどがあったら優しく相談に乗ってくれて本当に良い友達でありすごく感謝している。

日本で始まった留学生生活は、私が今まで過ごしてきた大学生活とあまり変わらなかった。普通に授業を受け、昼ごはんを友達と学食か、コンビニで買ったお弁当をおしゃべりしながら食べて、授業が終わったら、部活に行く。日本の文化にずっと憧れてきた私は迷いなく茶道部に入ることにした。正座はちょっと大変だったが、本当に楽しかった。しかし、やっぱり私は外国人で、最初はいきなりの全部日本語での授業を受けるのが厳しかった。これも日本人の友達に授業中によくわからなかった内容を優しく教えてもらって、助かった。

ここでは、向こうの大学では体験できない日本ならではの色々な面白い出来事がいっぱいあって本当に毎日が楽しかった。留学生交流センターにはいろんな国から来た留学生たちがいて、日本に留学に来たけど、実際、日本だけではなく、ヨーロッパやアメリカのことにいつもお互いの話し合いの中で知ることができてうれしかった。日本の例えば、花見やよさこい祭りなどの文化や歴史の体験もできた。8月にあったねぷた祭りは我々留学生が直接参加することができ、本当に楽しかった。その他にも、留学生と日本の友達と一緒に青森の有名な十和田湖や白神山地に遊びに行ったり、青森市や八戸市にも遊びに行ったりしていた。

日本に留学して、最初は初めてのひとり暮らし生活や新しい環境に戸惑うこともあったけど、日本の情熱な学生たちが、親切なセンターや学部の先生たちが自分のことのように手伝ってくれて、寂しいはずの外国での留学生活がすごく楽しくなって、「もう帰りたくない！」っていうくらいになっちゃった。私の留学生活はまだ終わっていない。これからはこれまで以上に楽しい毎日が続くことを心から楽しみにしている。

Ⅲ　新任教員自己紹介

21世紀教育センター

21世紀
教育センター

田中正弘

はじめまして、7月1日に着任しました田中正弘です。島根から遠路はるばる、もっと自然の豊かな土地を求めて移って参りました。人混みが苦手で、掛け流しの温泉と新鮮なお魚にこだわる私にとって、青森は理想的です（本格的な雪国は初体験ですが…）。私の専門は高等教育論です。本学の21世紀教育をより良いものにしていくのに必要な条件を探求し、その実現に尽力していきたいと存じますので、よろしくお願いいたします。

理工学研究科

理工学部研究科
知能機械工学科
准教授

麓　耕二

7月１日付けで理工学部知能機械工学科に准教授として着任いたしました麓耕二と申します。北海道から弘前に移住して、はや2ヶ月が過ぎました。今年の猛暑に若干戸惑っておりますが、岩木山に見守られているような、この弘前が大変気に入っております。研究は熱流体工学を中心とする伝熱制御の研究を行っております。これから研究・教育、そして地域貢献に精一杯取り組んで参ります。どうぞよろしくお願い致します。

Ⅳ　けいじばんコーナー

「性犯罪等の被害を避けるための安全講習会」を開催

本学では、昨今女子大学生が凶悪事件によって被害を受ける事件が相次いで発生していること、また、夏季に向け性犯罪事件の増加が懸念されることを受け、防犯意識の向上を目的として、6月30日（水）に安全講習会を実施しました。

講習会は、学生及び教職員50名が参加し、青森県警察本部の協力を受けて行われました。

まず最初に講師の青森県警察本部子ども・女性安全推進室女性安全推進係長から、犯罪統計や具体的な犯罪事例、身を守るためのポイントなどについての解説があり、常日頃から自分の身は自分で守るという意識を持ってほしいこと、不安を感じたり困った時は遠慮なく警察へ相談してほしいことなどがアドバイスされました。

その後、犯人から逃げることを目的とした護身術の実技講習を行い、腕を捕まれた場合の振りほどき方や背後から抱きつかれた場合の脱出方法などが実演とともに解説され、参加者は笑顔を見せながらも真剣に実技を練習していました。

また、終了後に行ったアンケートでは、回答があったものは全て満足であったとの評価となっており、満足度の高い講習会であったことが伺えました。しかしながら、「もっと実技を知りたかった。」といった意見や、「頻繁に行ってほしい」、「全新入生に受講させてほしい。」などの要望もあり、次回開催への課題となりました。

「熱心に受講する参加者」

第10回　弘前大学総合文化祭の実施事業一覧

テ　ー　マ：「彩」
実施時期：平成22年10月22日（金）～10月24日（日）

実施区分		実施事業	日時
弘大祭（学生実施事業）	学祭本部	着ぐるみ･風船配り、スタンプラリー、ソフトボール大会、看板男子、ビンゴ、バンド、看板娘、アームレスリング、芸能人招致イベント、ダンス、学部長イベント、カラオケ、○×クイズ、たべもの系、ショータイム、強運王、大抽選会	10月22日(金)～10月24日(日)
	教育学部	村山屋、小林一茶、一日幼稚園、Zac Donalds、ちいさな占い屋さん、ものづくり HOUSE、正一食堂、あそびの TUBO、平田焼き、そうだ！！保健室へ行こう☆	
	医学部医学科	医学展、Channge!（仮）、医学部写真部写真展、漢方喫茶（仮）、不思議の国のアリス、医学部管弦楽団演奏会	
	医学部保健学科	保健学科展	
	理工学部	天文同好会 COSMO 展、ロボット展示	
	農学生命科学部	農産物販売、オリジナルりんごジュース等販売、Chinese 鳥殿芋園、炭火焼、りんご屋、ふるさとの味っこ屋、もち搗き	
学術文化祭（部局等実施事業）	人文学部	下北半島の亀ヶ岡文化	10月22日(金)～10月23日(土)
		雇用政策研究センター研究成果公開	10月22日(金)～10月24日(日)
	教育学部	グラスハープの演奏と音に関する実験学習	10月23日(土)～10月24日(日)
		スポーツフェスティバル2010「遊びのバイキング」	10月23日(土)
	医学研究科	役立つ最近の医療情報	10月24日(日)
	保健学研究科	市民公開講座「最新の放射線医療」	10月23日(金)
		緊急被ばく医療人材育成プロジェクトの紹介	10月22日(金)～10月24日(日)
	医学部附属病院	市民公開講座「癌を知る」	10月23日(土)
	理工学研究科	楽しい科学	10月24日(日)
		サイエンスへの招待	10月24日(日)
	農学生命科学部	公開講座「農山村地域の魅力を探る」	10月24日(日)
		金木農場産米の販売	10月23日(土)～10月24日(日)
		プロカメラマンが撮影した「動物標本写真展」	10月22日(金)～10月24日(日)
		「サイエンスパーク」農学生命科学部動物標本展示室・特別公開	10月22日(金)～10月24日(日)
		地域環境工学科の研究・教育内容紹介	10月23日(土)
		弘前里山農家自慢のお料理・漬物コンテスト	10月23日(土)
		生物学科紹介	10月23日(土)
		鰺ヶ沢物産展	10月23日(土)～10月24日(日)
	地域社会研究科	つがるブランド化（社会実験）	10月22日(金)～10月24日(日)
		津軽地域づくり研究科シンポジウム	10月23日(土)
	附属図書館	知の宝！　古本市　～リユースブックフェア～	10月22日(金)～10月24日(日)
	遺伝子実験施設	カレーうどんと遺伝子実験施設案内	10月24日(日)
	総合情報処理センター	世界各地の風景と一緒に写真を撮ろう	10月23日(土)～10月24日(日)
		世界のライブカメラ	10月23日(土)～10月24日(日)
		世界と日本のおいしい珈琲	10月24日(日)
	生涯学習教育研究センター	集い、ともに歌おう！　－「団塊世代」の「歌声」運動の軌跡をたどる　－	10月24日(日)
	地域共同研究センター	産学連携特別講演会　－弘大 GOGO ファンド成果発表－	10月24日(日)
	国際交流センター	みんなで作ろうインターナショナル・エコバック	10月23日(土)
	白神自然観察園	白神山地の四季	10月23日(土)～10月24日(日)
	学生就職支援センター	自分は何になる？　適職診断テストをやってみよう	10月23日(土)～10月24日(日)
	学務部入試課	ミニ・オープンキャンパス	10月23日(土)～10月24日(日)
	弘前市	地元産農産物等販売・りんごジュース無料試飲会	10月23日(土)～10月24日(日)
		献血推進事業	10月23日(土)
	放送大学	放送大学オープンキャンパス	10月22日(金)～10月23日(土)
	弘前大学生活協同組合	健康安全祭	10月22日(金)～10月24日(日)
		フリーマーケット	10月22日(金)～10月24日(日)
	日本原燃	エネルギーコーナー	10月23日(土)～10月24日(日)
全学イベント		Opening Festival	10月22日(金)
		よさこい弘大	10月23日(土)
		駅伝大会	10月24日(日)
		職員芸術・造形作品展	10月23日(土)～10月24日(日)
		学長主役イベント	10月24日(日)
		Final Festival	10月24日(日)
		花火	10月24日(日)
		10周年　弘前大学マスコットキャラクタ募集	10月22日(金)～10月24日(日)
		10周年　模擬店・みしぇらん	10月22日(金)～10月24日(日)
		10周年　てがた DE アート～みんなでつくろう彩りの空～	10月22日(金)～10月24日(日)
		10周年　座談会	10月23日(土)

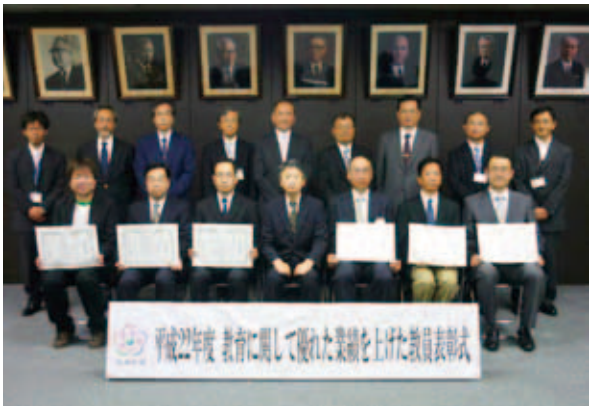
弘前大学教育に関する表彰式を実施

本学では、前年度において「成績優秀学生」及び「教育に関して優れた業績を上げた教員」を対象として、8月2日（月）に事務局大会議室で表彰式を実施した。

今回の受賞者は、教員7名、学生26名で、表彰式には、各学部長・研究科長も出席し、神田教育・学生担当理事から一人ひとりに表彰状と副賞が贈呈された。

これを受けて、学生を代表して教育学部2年の高野郁花さんから、教員を代表して理工学研究科の氏家良博教授から謝辞が述べられ、表彰式は和やかなうちに終了した。

神田教育・学生担当理事（前列右から5人目）と表彰学生



神田教育・学生担当理事（前列右から4人目）と表彰教員

平成22年度　学生ボランティア活動助成

平成22年度学生ボランティア活動助成の募集について8件の申請があり、下記の団体が承認されました。選考結果の通知は、平成22年6月22日（火）に学長から交付されました。

団体名	申請代表者名
児童文化研究部（KIDS）	関　祐　介（教育学部）
僻地教育研究会	影　山　琴（教育学部）
さくらボランティア	成　田　章　太（理工学部）
ひまわりサークル	工　藤　聡一郎（医学部保健学科）
SaBoTen（サボテン）	石　岡　幸　大（教育学部）
環境サークルわどわ	関　口　龍　太（理工学部）
Teen & Law（青森家庭少年問題研究会）	鳴　海　翔（教育学部）
アダプテッドスポーツサークル	今　亜里沙（教育学部）

Ⅴ　編集後記

記録的な猛暑に見舞われた今夏も9月に入り、津軽では朝夕めっきり涼しくなり、秋の気配が感じられる此頃です。

長い夏休みも残り少なくなりました。学生諸君はさぞかし充電し、パワーもいっぱいで10月からは元気に登校のことでしょう・・・。それともインターネット等に熱中するあまり、寝不足気味でしょうか？睡眠不足は記憶減退、思考力散漫、気分不安定、いらつく、さらには飲食を刺激するホルモンが分泌されて肥満になりやすく、要注意です。

さて、学園だより168号をお届けします。本号は特集として「弘前城築城400年にむけて」と題し、明年築城400年の節目を迎えるにあたり、学内外の方々に寄稿して頂きました。津軽を平定した藩祖為信公の高岡（弘前）への築城計画に始まる歴史的変遷について、人文学部の築城400年を契機として歴史、文化、経済それぞれの側面からの地域振興に取り組む姿勢、また弘前市主催の盛り沢山のプレイベント及び本番に向けたイベントのスケジュール内容を記事に紹介して頂き、大変参考になりました。

ご協力くださいました執筆者の皆様に厚く御礼申し上げます。

おわりにあたり、今日までおよそ400年間、津軽の中心地として弘前城も弘前の町並みもあらゆる天災・地災或いは人災や戦災からも免れて繁栄を続けて来たことに改めて感謝の念でいっぱいです。

本年12月4日の東北新幹線全線開業とも相まって城下町・弘前の文化、政治、経済がさらなる発展を遂げられることを願っております。

（T.F）

広告

2010年８月１０日
弘前城築城400年祭キャラクター「たか丸くん」と一緒に、高校生を迎えました！

弘前大学オープンキャンパス

2010年８月10日（火）に弘前大学オープンキャンパスが開催されました。
当日は5,800人もの高校生が来場し、キャンパス内は大変にぎわいました。

弘前大学生協では来場した方へのドリンクの無料配布を行い、とても暑い日だったこともあって大好評でした。お昼には準備したドリンクが全てなくなってしまいました。
また、当日は住まいについての相談ブースも設けたところ、32組のご来場をいただきました。

ドリンク4400本配布！

もっと利用しやすい店舗をめざして…たくさんの声をお聞かせください！

■教職員・院生組合員懇談会を開催いたします。■

生協では、さらに多くの組合員にご意見を伺い、下期はもっと利用しやすい店舗をめざします！
９月以降に各学部、部署ごとの教職員・院生懇談会を開催していきます。
日ごろ生協を利用して感じていること、こうなればもっと利用できるなど、いろいろ生協に対するご意見をいただく場として開催いたします。

お昼休みを利用して、レストランスコーラムでお食事はいかがですか？
生協のオリジナル商品を試食してみませんか？ 懇談会参加者は3名からOK！
参加費も無料です！どしどしお申し込み下さい！

■秋の生協まつり

11月は恒例の生協まつり企画を開催します。
期間中は超お買い得品や抽選くじを用意して、組合員の皆さんに楽しんでいただきます。

●開催日（予定）

11月8日(月)～12日(金)

※10月に発行される生協まつりチラシで企画内容などご覧下さい。

卒業生のみなさまに重要なお知らせです

-出資金返還の受付について-

卒業予定の組合員の皆様に、卒業までのいろいろな準備の支援、生協出資金返還手続きなど、まとめて行える窓口を開設します。

●開設日につきましては、10月下旬にチラシ、DMで詳しくご案内いたします。

弘前大学生協は、弘前大学の発展、地域の発展に貢献していきます。

弘前大学生活協同組合
TEL：0172-34-4806 /FAX：0172-36-6965
ホームページ：http://www.hirosaki.u-coop.or.jp

記念会館

教育学部校舎

弘高生青春の像

弘前大学 学園だより Vol.168

2010年9月発行

学園だよりに関するご意見がございましたら、
下記のアドレスまでお寄せ願います。
e-mail: jm3113@cc.hirosaki-u.ac.jp
弘前大学学務部学生課

HIROSAKI
UNIVERSITY

国立大学法人　弘前大学
「学園だより」編集委員会

委員長
一戸とも子（教育・学生委員会）

委　員
平野　潔　（人文学部）
佐藤光輝　（教育学部）
松谷秀哉　（医学研究科）
中野　学　（保健学研究科）
任　皓駿　（理工学研究科）
藤田　隆　（農学生命科学部）
佐々木宣子（学生課）
佐々木忠　（学生課）

印刷：ワタナベサービス株式会社